

日本ボストン会会報

発行所 日本ボストン会事務局

ご挨拶

会長 法眼 健作

東日本大震災から半年がすぎました。この間、復興のための努力は色々となされてはいるものの、そのスピードが今一つ遅いというのが一般に持たれている実感ではないだろうか。もちろん放射能の危険という事態を踏まえて、なかなか作業がはかどらないという面はあるが、それにしても政府サイドの施策がもの足りない。野田首相という実務型の首相になって変わると良いのだが。

そういう中で、世界各地から寄せられた支援には有難い思いである。ボストンのフィッシュ・東光・厚子さんのエネルギー活動については、棚橋さんが詳しく書いておられるので、重複は避けたいが、お嬢様と現地へ赴かれ、実際に支援活動を行われるということは、仲々出来るものではない。ボストン会の一部の方々と昼食をご一緒してお話を伺ったが、ほとんど頭の下がる思いである。しかもボストンでメディアに働きかける等継続的に活動しておられることを知り、更めて敬意と感謝の念をこの場をお借りして表明したい。

私は外務省に41年いたが、その中で途上国支援の仕事をしたことがある。大震災の後、アフリカ、

東南アジア等の途上国から心のこもった支援が数多くなされている。もちろん先進諸国から支援が沢山来ているが、これら途上国、特にアフリカからの支援は「これまで日本がしてくれた援助に対し少しでもお返しをしたい」という個人個人の善意の積み重ねであり、額の大小にかかわらず胸を打たれる。

大震災を機会に、我々日本人は、将来の日本の姿、あり方に色々な形で思いをはせる機会に直面していると思う。将来に対する不安というものが、大きく出ている。財政赤字、人口の減少、高齢化、物造り国家でありながら、国内で物造りがどんどん減少している事実等々数限りない。今度の震災を一つの機会として反省すべき点は反省し、改める点はどんどん改善し前に進むほかはない。

それにしても足を引っ張っているのが「政治のおそまつさ」である。政治家を選ぶのは国民なのだから、国民一人ひとりが責任を持って少しでもまじな政治家を選出することしかないのだが、まともな候補者がめったにいない現実、この国の将来を物語っているような気がしてならない。日本の復興は政治の復興と一体をなしていると考える。



(敬称略) 棚橋征一、水野賀弥乃、吉野耕一、フィッシュ夫人、吉田博、法眼健作。

投稿

東北の被災地救援に立ち上がった

ボストンの親日団体

米国ボストンでは 3.11 東日本大震災の発生後すぐに、ボストン日本協会(Japan Society of Boston)、ボストン財団(The Boston Foundation)およびフィッシュ・ファミリー財団(Fish Family Foundation)が連携して、東北被災地救援を目的とする日本災害救援基金・ボストン(Japan Disaster Relief Fund—Boston)を立ち上げました。

このうち、1999 年に Fish 夫妻が設立した FF 財団の理事を務めるフィッシュ・東光・厚子理事が娘の Emilyさんと共に今年 4 月に来日しました。滞在中、ふたりは福島、宮城、岩手の被災地を訪れ、現地の NPO 関係者の協力を得て、惨状をつぶさに視察し、支援活動を行ってきました。当協会ではこの機会をとらえて、4 月 26 日、法眼会長にホスト役を務めて頂き、都内で Fish 夫人を囲む昼食会をもちました。Fish 夫人からは臨場感にあふれる体験談や、今後の救援復興に向けての率直なご意見を伺うことができました。

Fish さんはボストンへ戻った後も、現地のマスメディアの要請を受けて精力的に取材に応じるなど、あらゆる機会をとらえて被災地の惨状を伝えて上記 JDRF-B への寄付・協力を呼び掛けてきました。8 月末現在、JDRF-B への寄付は FF 財団の当初拠出額 10 万ドルを含めて約 75 万ドルに達しています。この 9 月にはボストン・バレエ団のプリンシパル・ダンサー(日本人女性)の協力を得て特別チャリティ公演「千羽鶴」も挙行するそうです。

一方、JSB では 6 月に、iPS 細胞の研究で著名な京都大学再生医科学研究所の山中伸弥教授および CNN のニュース・アンカーマン Anderson Cooper 氏(都合によりビデオ出演)をゲストに招いて開催された年次ディナーにおいて、「Help support Disaster Relief in Japan. Help heal a Nation」をスローガンに掲げ、200 名を超える参加者等から寄付を募りました。また、ことしの John E. Thayer Award は、3.11 発生直後に気仙沼へ急行して被災者の救援に当たってきたボストン在住の医師 3 名に贈られました。

以上、Fish 夫人および JSB の Grilli 理事長から提供された情報をもとに簡単に報告させて頂きました。

棚橋 征一

2011 年度紅葉狩りのご案内

日時： 11 月 27 日(日) 15 時 入口集合
場所： 殿ヶ谷戸庭園 (国分寺市南町二丁目)
JR 中央線、西武線「国分寺駅」下車
徒歩 2 分
問合せ： 0 2 4 2 - 3 2 4 - 7 9 9 1
入園料： 1 5 0 円(65 歳以上 7 0 円)
会食： 北の味紀行と地酒 北海道
国分寺南口駅前店
電話 0 4 2 - 3 0 0 - 1 2 7 7
国分寺市南町 3 - 9 - 1 5
国分寺ステップス 4F
開始： 16 時予定 費用： 飲み物別 4,000 円程度
JR 国分寺駅徒歩 1 分
申し込み： 藤盛紀明 富美子

(前日まで受け付けますがレストラン予約があるので出来るだけ早く申込み下さい。)

記

本年は都心を離れた国分寺駅前の殿ヶ谷戸庭園にしました。あまり大きな公園ではありませんが、公園の HP によれば武蔵野の自然の地形、すなわち段丘の崖にできた谷を巧みに利用した「回遊式林泉庭園」です。崖の上の明るい芝生地と崖下の湧水池、樹林で雰囲気が一変する造園手法がみどころのひとつです。庭園の名称は、昔この地が国分寺村殿ヶ谷戸という地名であったことに由来します。

会食場所は国分寺周辺には沢山のレストランがあり選択に迷いましたが、無難な居酒屋チェーンにしました。どなたかお勧めのレストランがあればご連絡下さい。

本年の紅葉狩り場所として吉野初代会長から美ヶ原高原の提案がありました。早速手配を試みましたが、周辺の宿は既にどこも満室でした。

日本ボストン会の紅葉狩りは第一回が新宿御苑、ついで駒込の六義園、奥多摩、神奈川七沢森公園、小石川後楽園、旧古河庭園、昨年はバス貸切で奥養老溪谷でした。そろそろ一泊の旅も企画してほしいと思います。今回の会食で皆さんと議論して早めに宿の手配をしたいと思います。

幹事： 藤盛紀明、藤盛富美子、水野賀弥乃。

河鍋暁斎記念館見学記

三好 彰

三好 彰

5月21日(土)に埼玉県川口市にある河鍋暁斎記念館を見学した。会報に「フェノロサ、ビゲロウと三井寺法明院」を連載中の山口静一会員は河鍋暁斎の研究家でもあり、2007年の法明院参詣のように山口会員に案内いただけるのが見学のきっかけであった。

参加者は会員の関直彦・尚子ご夫妻と棚橋征一氏、美術と歴史の会の幹事である酒井一郎氏と三好美智子・彰のほか三好の友人の福田久子さんであった。

河鍋暁斎は幕末から明治中期にかけて活躍した絵師である。身につけた伝統的な大和絵の描き方に基づきながらも、その枠を越える大胆な筆力と奇抜な発想で多様なジャンルの絵をものにした。取り分け若い頃に狂斎と名乗ったように戯画や風刺画を得意としたが、筆が滑って筆禍事件を起こして投獄されてしまった。出獄後に暁斎と改名したが、この字をキョウサイと読ませた。

河鍋暁斎記念館は御子孫が運営されている。河鍋家には暁斎の書き残した膨大な下絵があり、その本絵を見つけ出して展示するようにしたそうである。ちょうど物語をテーマにした作品の企画展が行われていた。天岩戸の神話、仏教関係の説話、そして桃太郎などの民話が鮮やかな色彩で描かれていた。その中に山口会員が海外から買い戻された作品もあった。この日のための特別展示だと知った。

来日した著名な外国人に暁斎の愛好家が多く、それらが現在では欧米各地の著名な美術館に所蔵されている。このことを現地調査された山口会員が詳しく解説してくださった。

その著名人を各国から一人ずつ挙げるとベルツ(ドイツ)、ギメ(フランス)、キオソーネ(イタリア)、コンドル(イギリス)、それにラファージ(アメリカ)となるが、このほかにも枚挙に暇がない。建築家であるコンドルは暁斎に弟子入りして暁英という雅号で絵を描き残しているのだから、その心酔振りが伝わってくる。

会員の方になじみのあるフェノロサとビゲロウが蒐集したものはボストン美術館に、そしてモースのコレクションはセーラムのピーボディ・エセックス博物館に収まっているそうである。

見学の後近くのレストランで遅い昼食をとった。

1. 『ボストン日本人学生会の記録』の調査レポート
*調査レポートに纏めあげた。B5 サイズで本文が110 ページ、付表(名簿)36 ページである。

*この記録には約 650 人の日本人・日系人と、約 190 人のアメリカ人が登場する。保井コノ(日本人初の女性の理学博士)、山本五十六(元帥)、姉崎正治(日本人初のハーバード大学客員教授、宗教学者)、モース(大森貝塚発見者、東大教授)、都留重人(経済学者)、ライシャワー(駐日米国大使)などの著名人が多数登場する。また学生の親代わりになった在留邦人も出てくるが、これらの人々は歴史の影に隠れており、実像がつかめるのは一握りの人だけである。

*大学間をまたがった日本人学生の活動でほかに類例を聞かない。ボストンはこのような活動を可能にする規模の学術都市であることが背景にある。

*調査レポートの刊行を検討したが広い読者層に訴求できるものでないと判断して断念した。

*調査レポートのコピー(DVD 版)を調査の段階でお世話になった方々に配布する予定である。日本ボストン会の会員でこのコピーを希望される方は担当幹事までお申し出ください。

2. 原本の永久保管先について

この『ボストン日本人学生会』の記録の調査を企画した元会長で現顧問の井口武夫氏のお骨折りで、財団法人 国際文化会館に原本を永久保管していただけることになった。原本は一般公開される予定である。

国際文化会館は世界の人々との文化交流と知的協力を通じて国際相互をはかるために、1952 年に設立された都内にある非営利の民間団体である。各種の国際交流事業を実施するプログラム部門と、その事業を支える国際交流の場としての施設の維持管理にあたる業務部門とからなっており、多数の関係書籍を有する立派な図書室がある。原本はこの図書室で保管される。

尚原本を戦争直後にハーバードで発見した藤代素子(ケンブリッジ生まれの日系二世、戦後に留学)は国際文化会館に勤務したことがある、奇縁である。

(前受)

山口会員は現地調査の秘話を披露された、また最近のご研究のことのほか大戦中のお話やパソコンとの格闘振りなど尽きることのない楽しいお話を伺い時間がたつのを忘れるほどであった。

フェノロサ、ビゲロウと三井寺法明院 (IX)

山口 静一

【36】ボストンでの反響

漸く著名になりかけたこのジャパノロジストの急逝をロンドンで報じた新聞は一紙もありません。各紙とも連日サラサーテの訃報に埋められています。美術批評家ローレンス・ビニヨン (Laurence Binyon, 1869-1943) が『サタデー・レビュー』に載せた小論の前半部をフェノロサ追悼に当てたのは翌月になってからでした。アメリカでは1908 (明治41)年11月2日付けでハーバード大学クラスメートによる公式追悼文が公表されています。

注目すべきは後者です。筆者は同窓の詩人・翻訳家 N. H. ドール (Nathan Haskell Dole, 1852-1935)。二つ折り4ページの短い文章でフェノロサの生涯を要領よくまとめていますが、「彼には妻と1883年7月25日生まれの娘ブレンダが後に残っている」と記し、メアリとの再婚を認めていないのです。締め括りも「我々は友人の過ちに目をつぶるわけには行かぬが、人生の最も貴重な財産に恵まれた友人として彼を記憶に留めることに吝かではない」と結ばれています。ボストンの友人たちが、フェノロサの業績に関心を示しながら彼を敬遠した理由がよく分る追悼文でした。

実際リジーは離婚後も、自らフェノロサ夫人と名乗り、他からもそう呼ばれていました。以下は離婚裁判でも彼女の味方であったビゲロウの12月6日付けリジー宛哀悼文です (ハーバード大学ホートン・ライブラリー蔵)。

・・・彼はある意味では偉大な人物でした。能力と実行力を兼ねていました。多くの点で例外的な人物でした。しかし、あらゆる点で例外的たり得ると考えたところに彼の過ちがあったのです。人間はあらゆる時にあらゆる人よりも賢明であるわけにはまいりません。最も強烈な個性の中にさえ、きわめて凡庸な大なる過ちがあるものです。これを無視することは即ち災いを招くこととなります。

彼の霊の安らかに眠らんことを。もし彼にして正しく身を処することができたならば、彼は真に偉大なる人物となっていたであらうでしょう。しかしながら、大いに世のために尽くしたことは事実であります。・・・



自他同氏「フェノロサ」追悼会「中野野山」十二月一日午後一時撮影

【37】フェノロサ追悼法要

法要は1908 (明治41)年11月29日於上野寛永寺。故人の教え子で、終始恩師の日本研究を扶けた有賀長雄が祭主となり、輪王寺門跡救護栄海上人を導師として僧侶13人が読経、帝国大学総長浜尾新、前宮内大臣土方久元が弔辞を捧げ、参列した友人知己60余名が焼香したのち記念写真撮影があって、追悼記念会は上野精養軒で開催されます。

文学部第1期生としてフェノロサに教わった井上哲次郎 (帝国大学教授) の挨拶、ハーバード大学で同期、フェノロサに日本美術の手ほどきをしたと自認する金子堅太郎の講演があってから遺著の出版、故人半身像を美術学校内に建設すること、メアリ、リジー両未亡人に追悼文と記念写真を贈ることが決議され、その後食卓を囲んで各氏の追悼談が始まりました。

席上メアリから有賀長雄に宛てた10月23日付けの手紙 (彼の弔文に対する返書) の邦訳が配付されました。その中でメアリは、亡夫の遺骸をモビールの自宅の近くに移葬したいと述べ、「かつて彼は、わたしと一緒に三井寺に葬られたいもの、と言ったことがあります、それは到底実行し難きこと。臨終の時もそのようなこと話しませんでした」と書いています。

この時点でメアリは遺骨の日本送還を考えていなかったことが分ります。しかし12年前に三井寺を訪れた際、琵琶湖を見下ろす法明院の庭に立ったフェノロサが「死んだら一緒にここで眠りたい」とメアリに語ったのは事実だったのでしょう。その景観のすばらしさをメアリは生涯忘れませんでした。

フェノロサ、ビゲロウと三井寺法明院(IX)続き

【38】遺骨の三井寺移葬

故郷モビールに帰ったメアリが最も頼りにしたのはデトロイトのチャールズ・フリーアでした。彼は遺産処理その他故人の残したさまざまな問題について助言を求めた未亡人に対し、哀悼の意とともに懇切を極めた返書を送っています。懸念された前夫人リジーと娘ブレンダからの遺産相続に関する異議申し立ての提訴についても、親身になって相談に応じ、こまごまと対処の仕方を教えています。(フリーア・ギャラリー所蔵書簡)。遺骨の環送も、フリーアの示唆によるものでしょう。

メアリは翌1909(明治42)年4月、遺骨をロンドンから日本に改葬したい、就いてはその斡旋を願いたい旨の手紙をニューヨークの山中商会支店に送りました。山中商会はフェノロサに講演を依頼し、前年には主催する浮世絵展に解説目録を執筆させた縁故もありましたが、フェノロサは在日中からの上得意であった上、最近フリーアの代理人として輸入作品の鑑定購入に当たっていました。

この手紙はニューヨークの水野幸吉総領事を経て三井物産社長益田孝の許に届けられます。鈍翁と称した益田孝は当時財界きっての古美術蒐集家として知られ、故人とも面識のあった人でした。彼は手紙を追悼会の代表者有賀長雄に渡します。

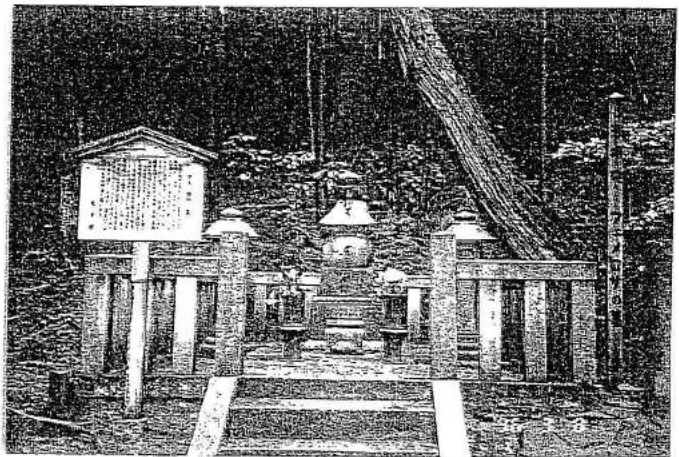
その結果メアリから直接、三井寺への改葬を望む故人の遺志を伝える書簡が有賀に届きました。有賀の奔走が始まります。彼はたまたま帰朝していた山中商会ロンドン支店の林愛作と面談してハイゲート墓地の様子を聴取し、改めて火葬に付するための手続きや経費の調査を山中商会に請う一方、自ら三井寺に出向いて直林敬円長吏と交渉、法明院墓域への埋葬許可を得ます。やがてハイゲートの火葬費用は3,40ポンド、法明院の墓は300円程度で出来ることが分りました。

同年7月、有賀は東京帝国大学山上御殿で総長浜尾新、東京美術学校長正木直彦、同校商議員河瀬秀治ら生前フェノロサと親しかった有力な先輩諸氏と相談。結果美術学校から200円、大学から400円の贈呈が決定します。

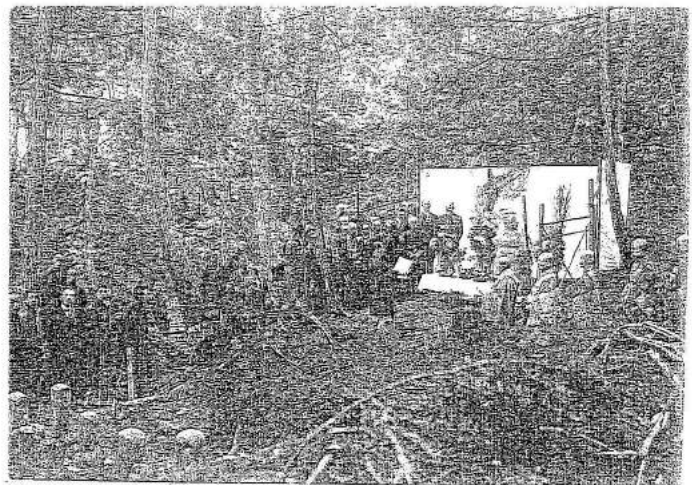
一方、同年8月中にロンドンから送られてきた遺骨は、あたかも故人の一周忌に当たる同年9月21日シベリア鉄道を経由して敦賀に到着。即日法明院に埋葬されました。(以上、フェノロサ一周忌、十三回忌の有賀長雄回想録による)。



三井寺法明院



法明院 フェノロサの墓



法明院フェノロサ一周忌法要

フェノロサ、ビゲロウと三井寺法明院(IX)続き

【39】墓碑の完成

同年10月、白川石の五輪塔墓碑完成。碑型は伊藤忠太、正木直彦が相談して相国寺の定家卿の墓に倣い五輪塔に決定。梵字は敬円阿闍梨、撰文は教え子の長老井上哲次郎。日吉神社宮司伊藤紀の浄書した碑文が墓石基壇四面に刻されています。墓前の石製香炉、石製花瓶、石製灯籠、各一對はフリーアの奉納によるものでした。碑文は現在苔むして読みづらくなっていますが、別記の通りです。

【40】法明院での一周忌法要

同年11月14・15の両日、フェノロサー一周忌の法要が法明院で盛大に挙行されました。墓前には勳三等瑞宝章、勳四等旭日章を胸に飾ったフェノロサの写真と供花に花輪。茶菓数種が供えられ大僧正直林敬円長吏および一山衆僧の読経、宮内大臣岩倉具定の祭文代読、続いて有賀長雄のフェノロサ来歴朗読、発起人・幹事らの祭文が読み上げられました。参列70余人には、神戸の米国総領事、同志社のミス・デントンらが在留外国人に混じってヨーロッパからの帰途法会参加のために立ち寄ったチャールズ・フリーアの姿もありました。

法明院の記録には敬円阿闍梨読経のあと、「メアリ未亡人献香」とあるのですが、有賀もメアリ来日のことに触れていません。おそらく代理の焼香だったと思います。当時メアリはモビールの自宅で遺稿の整理に忙殺されていました。

一方法明院の茶室では煎茶が立てられました。ここには神戸の川崎正蔵愛蔵の古画と並んで山中商会蔵フェノロサ筆「月下流水図油絵」の額が飾られたと『追悼会会記』は記録していますが未見です。

また当時三井寺塔中の一つだった円満院では、山中商会の肝入りでフェノロサ追悼古画展が催され、三井寺什宝を始め主として関西コレクター所蔵の古画・円山四条派・浮世絵など100余点が陳列され、また京都の吉田直次郎(著述家、出版書肆至誠堂主人)別邸では追悼茶席が用意されるという盛大な法要でした。これらの費用もすべて山中商会が負担したと、有賀長雄は伝えています。

【41】三井寺に帰りたい釣鐘の物語

後年メアリはMFAの館長宛てに亡夫の復権を求める書簡(Aug. 2, 1940)を送っていますが、その中に遺骨の三井寺移葬に関する次のような興味深い

物語が記されていました。

・・・ある時、それは中世の、仏教が日本で最も栄えていた頃のことです。全国の寺院の釣鐘で一番名の知られていたのが三井寺の鐘でした。ところが何マイルも遠くのある寺では大層それを妬んで、頭の弱い大男弁慶を雇い、夜陰に紛れてその鐘を盗ませたのです。鐘を自分の寺に運ばせ、かねて用意してあった鐘楼に吊り下げました。よこしまな坊主や行者は喜びの酒宴を開き、いざ鐘を打つてみたのですが、三井寺の誇りであったあの深く殷々と響き渡る音色は聞こえて参りません。その代わりに鐘は怯えだし、しくしく咽び始め、やがて大声で「三井寺に帰りたい」「三井寺に帰りたい」と泣き出したのです。何度やっても同じ有様ですので、遂に嫉妬深い僧侶たちも諦め、再び弁慶を雇って鐘を三井寺にかえたのです。

アーネスト・フェノロサは友人ビゲロウ博士と共にかけて三井寺の阿闍梨すなわちアーキビショップのもとで仏教を研究する許しを得たことがあり、三井寺の場所と環境に深く惹きつけられておりました。そして私や他の人たちに、よくこう申ししていたのです。死が自分を襲った時は、たといそれがどこであろうと、自分の遺骨はやはり三井寺に葬ってもらいたいものだ。はっきりと申しました。もし他の場所に葬られたら、きっと盗まれた釣鐘のように「三井寺に帰りたい」と泣き叫ぶであろうと。ロンドンの、あの痛ましい最後の日にも、心臓の発作がおさまるたびにそれを申しおりました・・・・・・・・・・・・・・・・

私がアラバマの故郷に帰り、やっと筆を持てるようになり時、何人かの日本の友人たちに夫の「三井寺に帰りたい」という希望を書いてやったのです・・・・・・・・・・・・・・・・

フェノロサの遺志をかなり大袈裟に脚色した文です。メアリが小説家であったことが改めて思いだされます。また、日米関係が悪化した頃の書簡で、亡夫が真に日本仏教に改宗したわけではないことを訴えた文章でもありました。同じ趣旨の文を週刊誌『ライフ』に投稿したと述べていますが、『ライフ』は記事にしています。

(次号に続く)

(埼玉大学名誉教授、前名古屋ボストン美術館館長)

フェノロサ先生墓碑碑文

正面(北面)

飛諾洛薩先生
諱越鑿涅私篤
仏蘭西斯格。一
千八百五十三
年二月十八日
生干米國沙列
謨市。其先出干
西班。母米國人。
先生學干哈瓜
士大學專修哲
學以英才顯。明

左面(東面)

治十一年為我
東京大學所聘
來講哲學。論理
明晰鑿鑿中
居數年旁考究
日本美術。大有
所得。明治二十
三年期滿歸國。
朝廷乃叙勳三
等後再三來遊
然不久留而去

背面(南面)

自是干講演干
著述唱道日本
美術之精妙而
不己將著書以
有所大主張而
暴没干倫敦客
舍時一千九百
八年九月二十
一日也先生曾
學仏教干桜井
敬徳阿闍梨深

右面(西面)

信之遂受戒号
曰諦信故知友
門人相謀改葬
干園城寺法明
院蓋干因其遺
志也。明治四
十二年十一月
一日文學博士
井上哲次郎撰
日吉神社宮司
伊藤紀筆

正面(北面)

フェノロサ先生
諱(いみな)はエルネスト
フランシスコ。一
千八百五十三
年二月十八日
米國サレム
市に生る。その先
はスペインに出づ。母は米國人
先生ハーバード大學に
學び専ら哲學を修し
英才を以て顯わる。

左面(東面)

明治十一年わが東京
大學の聘する所と為り、
來たりて哲學を講ず。論理
明晰、鑿鑿として(ハル
クワン)にあたる。
居ること數年、旁ら日本美術
を考究し大いに得る所
あり。明治二十
三年期滿ちて帰國す。
朝廷乃ち勳三等に叙す。
後再三來遊す。
然れども久しく留まらずして去る。

背面(南面)

これより講演に、著述に、
日本美術の精妙を
唱道してやまず。將
に書を著し以つて
大いに主張する所あらんとす。
而してにわかにかにロンドンの客舎に没す。
時に一千九百八年
九月二十一日也。
先生曾つて仏教を
桜井敬徳阿闍梨に
學び、深くこれを信じ、遂に

右面(西面)

受戒し号して諦信と曰う。
故に知友門人相謀りて
園城寺法明院に改葬
す。蓋しその遺志
によるなり。
明治四十二年十一月
一日文學博士
井上哲次郎撰
日吉神社宮司
伊藤紀筆

日米税金

吉野 耕一

平成21(2009)年春に帰国永住した際の経験を「帰国と戸惑い」(会報第35号)に記したが、税金に関しては確定申告前なので述べなかった。平成21年度の所得申告は同年1月1日に日本に居住していなかったため、日本における3月15日までの申告義務は生じていなかったが、日米夫々の税理士に任せて対応し、特に記すこともなく済ませた。

平成22(2010)年度の所得申告は、日本国税に関しては自分で対応したので、その経験を述べます。私の場合、収入源が米国だけです。米国の税金申告は4月半ばで、3月の日本での申告の際は米国の税金申告以前である故、Internal Revenue Service (IRS)への報告 Form 1099(年金等)の数値に基づき計算を行なった。これらの報告での税金差引額の総計は最終税額とは異なる。

日本での申告は当然円建てなので、為替レートに従って全てのドルを円に換算する。前年度の税理士は銀行から詳細なレート変動を取り寄せて平均レートを出して換算した。面倒なので、実際に換算した際のレート平均で換算したが、税務署から何の指摘も受けていない。米国での収入総額と差引税額を夫々円建てにする。日本での申告では、年金等の収入は雑収入になり、その内訳は年金とその他となっている。連邦政府とHarvardからの年金とSocial Securityからの収入を「年金」、それ以外を「その他」とした。この数値で確定申告の手順に従って税金の計算を行なう。計算された国内税額から国外収入による税額控除ができる。控除限度額の計算は所得総額中の国外所得総額の割合で決められる。

$$\text{国内所得税額} \times (\text{国外所得総額} / \text{国内所得総額}) \\ = \text{控除限度額}$$

国内での収入が無い場合は国内所得税額と国外所得総額が同じとなり、国内所得税が控除限度額になる。即ち同額になるので、全額控除された国内納税額はゼロとなる。国内収入がある場合は、その割合で控除限度額が少なくなりその差額が国内納税額となる。

都区民税は国内税額を元に計算され、控除限度額から計算された値が都区民税から控除されるが、控除額は少ないので、かなりの納税額となった。

所轄の税務署に提出された確定申告書は、地方公共団体にデータが送られるので、改めて住民税の申告書の提出を求められることはなかった。確定申告書の提出義務のない人は、住民税の申告書の提出を市区町村に求められるとのことであった。

会員新刊図書紹介

丹波實元外務審議官の著書

「わが外交人生」

丹波さんは、外務省の中でも珍しく米中ロ三大国に駐在しており、7月に外交官の回顧録として「わが外交人生」を出版された。読売(8月16日)、朝日(9月4日)、日経(9月11日)が同書の書評を掲載し、好評を博している。

日中国交正常化交渉、PKO 法案、サウジアラビア大使、外務審議官、ロシア大使として、我が国外交の最前線でご活躍されたご自分の半世紀を綴ったものである。同書の評論は専門家に譲って、ここで同書を取り上げたのは、「ボストン」へという章を設けて、ボストン駐在時のご活躍や思い出を語っているためである。外務省全体の経験を通じてボストン総領事ほど嬉しい発令はなかったと述べている程ボストンが大好きな丹波さんである。

ボストンは、外務省研修生時代にハーバード大学に通った町であり(同大学でロシア研究の修士号取得)、ボストン総領事(1986~1989)としての赴任は2回目のボストン駐在である。

1980年代後半は日米貿易摩擦が頂点に達していた時代であり、ボストンを中心としてニューイングランド地域の大学等を中心に積極的に実施した講演活動、当時の皇太子明仁親王、同妃美智子両殿下のボストンご訪問(1986年10月)の受け入れ、デューカキス・マサチューセッツ州知事が民主党大統領候補になったことに伴う、デューカキス陣営の情報集取活動等が取り上げられている。私的にもゴルフ、ボストン沖での釣り、冬のスキーを楽しんだことに触れており、公私ともにボストンでの生活をエンジョイされたと語っている。

最後に、その頃のボストンから見た日米関係について外部の雑誌に発表した鋭い洞察の一文を掲載している。今から考えても、変わってないところもあり、特に日米関係をさらに発展させ、幅を広げ、安定化させるために今後ともいかに努力していくことの重要性を指摘しているが、今こそこのことの重要性を痛感する時はない。

(文責 小坂橋 忠志)

ボストン日本語学校創立35周年」記念誌(2011年1月15日発行)から転載

ボストン日本語学校創立者の願い

ボストン日本語学校

名誉校長 増渕 興一

ボストン日本人会で1974年に会員の希望調査をしたところボストンから東京までのチャーター・フライトが最も多く、次は日本語学校の設立でした。

これらの事業をするのには日本人会が公益法人として認可されることが必要で、その作業に取り組みました。認可を受けたのが74年10月で早速学校の設立を計りました。教室にする場所が無くて困ってありましたところ、当時レキシントンにあったNECシステム研究所の武田行松社長から同社のオフィスの一部を教室として使って良いと言われたので75年6月に僅か25名の生徒で開校しました。

当時日本人会の会長をしており私は日本語学校の校長を兼務いたしました。ところが建物の持主から「児童の安全を保証出来ない」と言われたので、私の独断でMITの教室を使って授業を続けました。然しMITには多くの建物があるので生徒の一人が迷って仕舞う事件がありました。その当時、通商産業省から派遣されタフツ大学に留学しておられた原田義昭氏は日本語学校の世話を精力的にしておられましたが、氏がメドフォード高等学校で柔道を余暇に教えておられた関係で、10月からその教室を使わせて戴くことが出来る様になりこれが今日まで続いております。ボストン日本語学校では創立10周年、20周年及び25周年に記念誌を発行しており、多くの関係者のご努力が紹介されております。

幸いボストン日本語学校は概ね順調に運営され、生徒数も段々増加して現在は700人以上の生徒が毎週土曜日に学校で勉強しております。日本語学校を開設した当時、私は「世界中で多数ある日本語学校の中でボストン日本語学校が生徒数で一番になる可能性は全く無いが、その質では一番になれる可能性は十分にある」と言っておりました。1990年にボストン日本語学校は「特に優れた海外の補習校」として外務大臣表彰を受けました。その後も生徒諸君は勿論保護者、教職員など学校の運営に関係された多くの方々の献身的なご努力が続けられ日本語学校の運営が色々な面で改善されて今日に至ったことを大変嬉しく存じます。

米国の大学には多くの国から留学生が来ておりますが、最近では日本からの留学生が減少しております。小さな島国である日本が繁栄を永続する為には外国との貿易など国際化が重要であることは誰も知っております。それを実現する為には非常に多くの分野

武田行松氏とジョン・コックス氏のこと

元ボストン日本語学校運営事務局長

マサチューセッツ大学名誉講師 小久保 武

ボストン日本語学校創立35周年おめでとうございます。(以下略)

1974年の秋であったと思いますが、そのころ日本人会幹事会に提案として持ち出されていた日本語学校開設案が、場所と資金のネックに突き当たり、先に進めない状態に陥っていました。そんなある日の幹事会で、オブザーバーの武田社長から「週一度のクラスなら、うちの会社の部屋を使ったらどうです、土曜日は会社が休みですから。」とのご提言があり、結果的にこれが翌年6月の開校に発展する契機となったのでした。(以下略)

武田社長はさらにもう1つ、本校の土台固めに役立つ目に見えない貢献をされました。それは、開校と同時にご自分の社の経理の方を本校の経理担当委員として推薦して下さいました。(以下略)

もう1人の恩人はメドフォード・コミュニティ・スクールの校長(Director)ジョン・コックス氏です。氏も今は故人となりましたが、当時はメドフォード・ハイスクール(1965年の大火で焼失)がミシシッピ以東1、2を争う、壮大な校舎と施設をもつ高校に生まれ変わって間もない時期で、この立派な施設を市民の誰もが、いつでも利用出来るよう、毎日午後3時以降および週末の時間を、コミュニティ・スクールが全面管理するという体制が敷かれ、コックス氏はその最高責任者の地位にあったのでした。

このコックス氏とその管理下にあるこのコミュニティ・スクールが本校と結びついたのは、開設当初、学校運営委員の1人であった原田義昭氏(当時タフツ大学院で研修中の、前衆議院議員)が柔道の師範をしていた縁からでありました。(以下略)ボストン日本語学校の益々のご発展をお祈りいたします。

(前受)

で世界中の人々と交流する人々が必要で、次々と多くの若い世代の人々が参加されなければなりません。此の様な時に外国の大学に留学する学生が減少するのは非常に残念に思います。外国で幼少時代を送られた日本語学校の生徒諸君が日本の将来の発展は勿論世界平和の為に大いに貢献することは確実です。昔から「良く学び、良く遊べ」と言われておりますが、土曜日に日本語を勉強するだけでなく、月曜から金曜迄現地校で勉強すると共に友人を作ることをされております。今後皆様の益々のご活躍を祈ります。

美術の会

P i e r r e B o n n a r d

(1867-1947)

Art Gallery of Ontario, CANADA

2010年10月13日、トロント

真っ青に晴れた空、太陽の光が色鮮やかに変わる葉っぱにあたり、キラキラまるで宝石の輝き、風に吹かれ葉っぱが触れ合うときお話でもしているようだ、トロント郊外、車で30分、Richmond Hill の娘の家の窓から見える裏庭の風景は朝の目覚めを心地よくさせてくれる。

この日の午後 Richmond C. に駐車し、バスで15分の Finch C. へ、そこから地下鉄で45分の Dundas 通りの AGO (Art Gallery of Ontario) を訪れる。入口にヘンリー・ムーアの大きな彫像が訪れる人を出迎える。

トロントは丁度、美しい紅葉の季節、やはり“秋の景色”(1933)を描いた Pierre Bonnard (1867-1977) の作品に目を奪われた。木々の葉の活発な色彩、朱く、黄色く、華やかな色彩を繰り広げている。画家のご機嫌な様子が感じられる作品である。人々を楽しませる色彩が画面に広がっている。いくつかの強烈な色彩の響きあうリズムは、ゴウギャンの絵を思い起こす。ボナードの描く景色の中には生涯の恋人マルトが描かれていることが多いが、この秋の景色にその姿は無い。それにしても心地良い光が満ち溢れている絵である。

酒井 典子



“秋の景色”(1933)

音楽の会(報告)

哀悼の定期コンサート

大震災から僅か2日後でしたが、熟慮の末、予定通り3月13日(日)に第5回日本ボストン会定期ホーム・コンサートを開催しました。交通の不安から何人か欠席されましたが、総勢20人の参加者で、冒頭に黙祷を捧げ、震災で亡くなられた方々に哀悼の意を表しました。

クラリネット、ホルン、ピアノでボストンゆかりの奏者による素晴らしい演奏。災難と不安をしばし忘れることができました。

日本の音楽評論界で第一人者である蒲生美津子先生もご希望で出席され、かつてヨーロッパで盛んに行われていたホーム・コンサートを彷彿させる、との素晴らしい講評をいただきました。演奏の後は恒例により皆さんで、懇親会の花を咲かせました。

幹事 関 直彦・尚子

音楽の会(予告)

第6回定期ホーム・コンサート

猛暑の記憶も薄れて芸術の秋の始まり。日本ボストン会の第6回定期ホーム・コンサートを下記の要領で開催しますので、秋の優雅なひと時を満喫してください。当会会員である大沼岳彦さんのピアノ、当会の生田幹事のお嬢さんで、最近ヨーロッパから帰国された生田恵子さんのピアノ、それに堀子孝英さんのオーボエの組み合わせ。演奏の後は、ビュッフェスタイルの懇親会で歓談をお楽しみいただきます。

記

日時： 10月9日(日)開場2:30PM、開演3:00

場所：大田区田園調布4-11-6 関幹事宅

必要なら地図をFaxかメールで送ります。

会費：¥5,500 (高校生以下¥4,500)

締切：10月6日

申込： 関幹事まで

電話：03-6459-7553 Fax:03-6459-7554

E・メール：naoseki@kym.biglobe.ne.jp

懇親ゴルフ会報告・予告

1. 春期の懇親会は 4 月 28 日(木)、すばらしい天気
に恵まれた川崎国際生田緑地ゴルフ場で 12 名が
参加して開催されました。
結果は吉田久夫さんの 2 度目の優勝でした。
2. 秋期ゴルフ懇親会は下記の通り行います。
①日時：11 月 17 日(木)午前 8:33 インコース
②場所：川崎国際生田緑地ゴルフ場
③プレー代：16,000 円チェックイン時に現金でお支
払い下さい。このゴルフ場はカードは使用できま
せん。
④参加費：4,000 円、賞品代およびプレー後の表彰
式をかねたパーティの費用です。
⑤人数：4 組 16 人分を予約してあります。
⑥プレー方法：従来通り、ハンディキャップ戦。
多くの方のご参加をお待ちします。
申込先：山崎恒

「伝統芸能の会」のご案内

国立劇場開場 45 周年記念「平成二十四年初春歌
舞伎公演」の観劇会を 1 月に開催いたします。
今回は河竹黙阿弥作「通し狂言三人吉三巴白波(さ
んにんきちさとものしらなみ)・「奴廓春風(や
っこだこさとのはるかぜ)」で松本幸四郎ほかの出演
です。

観劇は 1 月 14 日(土)正午(開演)を予定していま
すが、準備の都合上参加希望者は 1 月 29 日まで
に幹事宛てお知らせ下さい。

河竹黙阿弥(1816~1893)の紹介：

「江戸歌舞伎の大問屋」と称される名作者。自ら会
心の作と認めた(白波物)の代表作「三人吉三」など
様式性・音楽性に富む世話物を書き、江戸歌舞伎の
粋を集めた名作を残した。所作事にも円熟した筆を
振った、「奴廓春風」が絶筆になった。

お問合せ先：吉野静子

滝沢典之

(お知らせ)

日本 MIT 会 創立 100 周年記念式典

日頃、日本 MIT 会の活動にご支援を賜り、心か
ら御礼を申し上げます。

さて、本年 2011 年は、母校 MIT の創立 150 周年
に当たり、母校では数多くの催しが行われておりま
す。一方、日本 MIT 会も米国外の同窓会として初
めて設立され、今年で 100 周年を迎えました。

この記念すべき年を祝うために、母校より Susan
Hockfield 学長をお迎えし、下記の通り式典と記念
講演会を開催いたします。

日時：2011 年 11 月 11 日(金曜日)午後 6 時(開演)
(午後 5 時開場)

会場：アークヒルズクラブ

東京都港区赤坂 1-12-32

アーク森ビル イーストウイング 37F

記念講演会 「岐路 3. 11 と日本の再生」

講師 島田晴雄氏(千葉商科大学学長、
86 年 visiting professor)

会費：日本 MIT 会正会員 7,000 円

非会員 9,000 円

島田晴雄先生は、現在、千葉商科大学学長・慶応
義塾大学名誉教授で、小泉政権下で内閣特別顧問と
してご活躍になり、国内外に幅広い人脉とネットワ
ークをお持ちで、現在日本で最も著名なエコノミスト
であります。日本国を愛する先生の視点から、
国際社会の中でこれからの日本が進むべき道につい
て御話し下さる予定です。

会員各位はもとより、ご家族、ご友人のご参加も広
く歓迎いたしますので、是非お誘い合わせの上ご来
駕賜りたくご案内申し上げます。

申込先：日本 MIT イベント事務局

<非会員の方の登録方法>

お名前(日・英)(例：佐藤太郎, Taro SATO)

所属 or 学校名、連絡先(メールアドレス、電話#)

名古屋ボストン美術館展覧会のお知らせ

会期：2011 年 9 月 17 日(土)~2012 年 2 月 19 日(日)

テーマ：「恋する静物 静物画の世界」

主要展示品：セザンヌ、ルノワール、マネ
絵画作品に加えて、陶磁器、工芸品

開館時間：平日午前 10 時~午後 7 時、土・日・祝・休日午前 10 時~午後 5 時

入館は閉館時間の 30 分前まで。休館日：月曜日(祝日・振替休日はその翌日)(年末・年始休館)

お問合せ先：名古屋ボストン美術館 名古屋市中区金山 1-1-1、TEL052-684-0101

第70回幹事会記録

- 日時： 2011年6月10日(金)午後6時半～8時半
- 場所： 新宿サミットクラブ 23名出席。
- *法眼健作会長挨拶。
 明治大学において4月から学生75人に講義をしている。ベトナム戦争やケネディ大統領を知っている学生が少ない、しかし今回の大震災を機に学生の考え方が変わってきた。
- *長島雅則次期会長候補挨拶
 MIT150周年、MIT日本同窓会100周年記念事業は10月に延期された旨報告。
- *事務局報告：新入会員6名(ヒロ高田、中村哲也、今脇順子、朝熊繁之、広瀬智子、吉田礼子。)行事案内用の旗を披露。
- *フィッシュ夫人東日本大震災へのボランティア活動で来日、昼食会の報告。(別項参照)。
- *「ボストンようこそ」頒布状況の報告。
- *HP 状況報告：容量の不足は110MB増量で対応したこと、東日本大震災復興応援ページの開設、内容の一部を更新したことを報告。
- *一繕乃会・アート・ゲート・プログラム報告。
- *美術と歴史の会：河鍋曉斎記念館における鑑賞会開催の報告。(別項参照)。
- *紅葉狩りの会：開催予定候補の報告。
- *お花見の会：東日本大震災で中止の報告。
- *ボストン日本人学生会の記録の現況報告。(別項参照)
- *音楽の会：ホーム・コンサート開催の報告。(別項参照)。
- *ゴルフの会：4月28日の会の結果報告。(別項参照)
- *ハイキングの会・山の会：予定ないと報告。
- *会報発行：原稿8月末締切、10月発行予定。
- *次回幹事会：9月20日。

第71回幹事会記録

- 日時： 2011年9月20日(火)午後6時半～9時
- 場所： 新宿サミットクラブ 23名出席
- *法眼会長挨拶：東日本大震災により留学生、オートレースのレーサーなど、近隣諸国以外の国からの学生、参加者の来日が減っている。国としての安全宣言が必要である。日本の地震からの復興は政治の復興と一体をなしている。(別項参照)
- *長島雅則次期会長候補：4月に開催を予定したMIT日本同窓会の100周年記念事業は11月11日開催を決定、母校よりSusan Hockfield学長を迎え、島田晴雄先生が記念講演「岐路3. 11と日本の再生」を英語で講演される。MIT関係以外の方の参加を歓迎する旨紹介された。(別項参照)
- *事務局報告：新入会員1人(北島信一。)
- *近藤宣之副会長：今年の総会は11月18日(金)、会場は昨年と同じNEC三田クラブ。今年は開場を30分繰り上げ、開会を午後6時、終了を8時半としたい旨提案があった。(別項参照)
- *2012年日本ボストン会創立20周年記念行事：準備委員会にて検討することにした。
- *一繕乃会：ファミリーハウス引越しのお手伝い。10月17日～21日、連絡先：水野賀弥乃。
- *紅葉狩りの会：(別項参照)
 (追記：11月27日、日曜日、国分寺市殿ヶ谷戸公園にて開催することになった。)
- *お花見の会：4月7日(土)、又は8日(日)を予定。
- *音楽の会：ホーム・コンサート10月9日(日)。(別項参照)。
- *ゴルフの会：11月17日(木)(別項参照)
- *伝統芸能の会：明年1月14日(土)開催。(別項参照)
- *会報発行：第38号は12頁、10月初め発行予定。これまでの業者が閉店、扱い業者の変更を報告。
- *次回幹事会：1月12日(木)。

日本ボストン会 総会・懇親会のお知らせ (同封チラシ参照)

日時：	平成23年11月18日(金)午後6時開会、午後5時半開場
場所：	NEC三田ハウス芝クラブ (JR 田町駅、都営地下鉄三田駅下車) 港区芝5-21-7、Tel 03-5443-1400
会費：	当日払い お一人 6,000円 / (同伴者 5,000円) 事前送金 お一人 5,000円 / (同伴者 5,000円)
送金方法：	銀行送金 みずほ銀行浜松町支店 普通預金口座番号 1578981 口座名 「日本ボストン会」
申込先：	日本ボストン会事務局(同封ハガキ、又はE-mailにて11月12日までに お知らせ下さい。)
日本ボストン会の活動はホームページにてご覧下さい。 http://www1.biglobe.ne.jp/~boston/	